



表紙の写真  
「海岸寺の石仏」

北巨摩郡須玉町上津金。県道須玉・清里線で、高根町清里地区へ通じる最高部に位置する。

行基(668~749)が養老元年(717)ここに庵をかまえたのが、海岸寺のはじまりといわれる。寛治年間(1087~1094)新羅三郎義光が甲斐國主の時、京より宝鏡律師を迎えて諸護国家の大道場とした。

応永年間(1368~1375)には謙倉・謙長寺より石室萬段和尚を招いて臨濟宗に改め開山する。天正十年(1582)織田信長勢に甲斐侵攻の際に焼き始められ、翌年徳川家康により再興された。

長い石段と山門を抜けすると「百番観音」と称する石仏が訪れる人を迎える。山深く木立に囲まれた海岸寺は、秋の風情に酒け込んで、静寂の時を私たちに与えてくれる。

(写真と文:浅川 輝)

『MUH』vol.6 1995.10.1

企画／早野グループ「MUH」編集室

深沢進・矢田道生・杉平篤樹・久保田充一

編集／株式会社ニュースメディア甲府

三神弘・三井君男・五味剛・清水広子・石原由里子・高山ひとみ・森本美佳穂

日本工業経済新聞社

印刷／有限会社オズプリント

誌名の「MUH」は、早野組の社訓である「和」を託した  
Mate(仲間)、Union(結束)、Harmony(調和)の頭文字  
からとりました。幻のムーディングのロマンを目指します。

<b>フォーラム</b>	
テーマ 車(くるま) 江宮隆之・古屋久昭・岩崎正吾・佐藤真佐美	2
<b>特集</b>	
山梨21 林 茂 松 氏(二代目能穴焼窯元主人)	4
ホスト 早野 潔	
伝統に咲いた花 焼物ひと筋の家系	
恵まれた自然環境 穴山の風土を活かして	
データ 能穴焼 作品etc…	
<b>トピックス</b>	
水・空気・安全はタダだった日本	10
<b>企業ウォッチング</b>	
老人保健施設ノイエス 今井 立史 氏	13
<b>サークル訪問</b>	
童話を書く会「ぴよんこの会」	14
<b>インフォメーション</b>	
早野組・トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨・甲府通運	16
<b>ようこそ歴史</b>	
土木史に不朽の名窟田幸左衛門 上野晴朗	18
<b>アートへのまなざし</b>	
名画に描かれた動物たち5 山本育夫	20
<b>トレンド</b>	
手話への誘い	22
<b>BOOK</b> こんなところに山梨… <b>BOOKコーナー</b> 秀十郎夜話	23
<b>リレーエッセイ</b>	
鎌物師と鍋屋町 渡辺貢市	24
<b>近代陸上運送の歴史をさぐる(6)</b> 林陽一郎	25
<b>ユーザー訪問</b>	
株式会社 マルヤマ	26
<b>街角探見</b>	
近藤 正彦さん(山梨市)	27
<b>インフォメーション</b>	
トヨタビースタ山梨・トヨタホーム山梨	28
<b>ときのひと・FACE</b>	
102歳 明治女の氣骨健在・菊島ぬいさん	29
<b>おしゃれ</b> 加賀美法子舞踊研究所 / たべる ケルシエ	30
甲州の野辺にて(2)	
満面の輝き 堀 慎吉	31
<b>コラム</b>	
某月某日	32



## 寅さんのこと

江宮隆之

「くるま」というと自動車のことではなく、「車寅次郎」という名前を思い出すのは何故だろう？「フーテンの寅さん」のことである。「帝釈天に産湯をつかひ、人呼んで…」の、あの寅さんの姓が「車」なのである…が、何か心に引っ掛かるものがあって…そうだ。帝釈天のことだ。

「帝釈天」というのは、インドの神様（インドラ神）で、後に仏教に取り入れられて仏法の守護神になった。十二天の一内で、須弥山頂上に住んでいるといわれる。その最大の敵は、よく知られている「阿修羅」。印度神話の悪神である。阿修羅と帝釈天は、世界が果てるまで戦いを繰り返しているのだという。

京都や奈良にある仏像などを見ると、帝釈天は、落ち着いた表情で、いわゆる「大人」のムードを漂わせ、阿修羅は、ものおじしない、恐いもの知らずの青年の罪氣と無分別と、それゆえの魅力を備えている。

この二神が、互いに自分の眷属を率いて2億6000万年もの間、戦い続けるというのは、気の遠くなるような話だが、いつの世も大人に挑み続ける若者がいるのだ、というように理解すると話は分かり易くなる。

ところで「車」のことである。

どうして「くるま」というと「フーテンの寅」なのか？

実は、葛飾柴又の帝釈天というのは、日蓮宗の題経寺。帝釈天というとこの寺のことで、今では「帝釈天」の代名詞。そして敵の阿修羅というのは、略して「修羅」。これは「車」の略字である。古代に、丸太を縦に並べて半円形の溝を作り、その中を滑らせる木材運搬方法があった。そこから、工夫されて大石や大木を運ぶ滑車を利用した車を、修羅と呼んだ。つまり「くるま」は「帝釈さん」の敵であった。が、寅さんは今日も「帝釈天に産湯をつかひ、姓は車、名は寅次郎」とやっている訳で…。昨日の敵は今日の友、ということにして。まあいいか。

■1948年増穂町生まれ。山梨日日新聞社記者などを経て、現在も同社勤務。「経済記」で第13回歴史文学賞を受賞。著書に『棲むる者』『山梨人物博物館』など。近著の『白猫の人』は日本と韓国同時発売。第8回中村星湖文学賞受賞。今年の青少年読書感想文全国コンクールの課題図書に選定。

## 車、半人生

古屋久昭

車の運転免許をとったのは、昭和38年である。私が社会人になつたばかりの時であった。

6教習ほど練習に通つて、いきなり試験を受け合格してしまつたのだ。どうやら運転技術と運動神経とは別ものようである。

もっとも御影（八田）の試験場での練習とは別に、私の住んでいた部落内の田んぼ道を、借りた軽トラで練習したことでも立つたようだ。

免許をもらってからは、よく女の子を誘つて4、5人でドライブへ行つたものである。伊豆や熱海、たまに長野方面へと、行く先は決まっていた。心躍る「青春ドライブ」といったところか。

もちろんその頃は、誰もが自家用車を持つて身分ではなかつたらレンタカーを借りてのドライブであった。

自分の車を持てたのは、20代の終り頃だったような気がする。A子とつき合つていたころはオートバイで、B子とつき合つたときにはスバルのポンコツ車だったから、見当がつく。

女性とのつき合いをオートバイから自家用車に乗り換えたことで、デートの仕方も大きく変つた。より男と女のつき合い方へと深化した。

自家用車といつてもポンコツ車ばかりが4、5台あった。カネがなかつたものだから、新品の恰好のいい車には乗れず、すべて中古車を譲つてもらった。

今乗っている車も父が新車を買って、一度事故を起こして燃りたらしく、さっさと私に譲ってくれてしまったものである。

その車はニッサンのP車であるが、私の2人の娘は、ともにこの車がダサイといって、一緒に乗りたがらない。時に石和駅まで乗せて行くのだが、2~300m手前で降りてしまうのである。

さて、私も50歳を超えたのだから、もうそろそろ人生という名の自家用車をしっかり運転しなければいけない。

人の口車にも乗らず、火の車からも降りて、自分の人生のスタイルに合つた車を、好きな場所や好きな通りで、好きなように運転したい。そう思つてゐるのである。

■1943年御坂町生まれ。数年一年間に百枚ほど描いた自宅の庭の花々スケッチ展を8月26日~9月3日まで甲府市社会教育センターで開く。日本現代詩人会員。

## 馬はクルマだったのである

岩崎正吾

いきなりの話だが、ある日、ふと疑問に思ったのである。武田信玄はなぜ強かったのだろうか。というのは、甲斐は米のとれる平地が少なく、人口も少なく、つまり国力と呼ぶものが低い。そこに本拠を置く武将が、米どころで海の幸にも恵まれた越後の武将と互角の戦いを演じた。素朴に考えると、不思議なことである。

武田軍團が強かったのは、勇猛な騎馬隊をもつっていたからだと物の本には書かれている。『甲陽軍鑑』には、一万騎の騎馬隊がいたとある。なるほど、と納得する。競馬にでも行けば、馬が群れをなして走る壯大さに圧倒される。一万騎もが地響き立てて殺到してくれば、歩兵なんかはひとたまりもなからう。

しかし、疑問は残る。そもそも上杉始め他の武将が、騎馬隊を持たなかつたのはなぜだろう。騎馬隊が威力があるものなら、誰もが競って持ちたかっただろう。信長は乗馬得意とし、桶狭間の一騎がけなど、名場面はたいてい馬で登場する。それなのに、戦国時代、武田騎馬隊のみが勇名をはせ、武田のトレードマークのようになつたのはなぜか。

昔、馬はクルマのごときものだった。戦闘の他にも、輸送、農業、狩猟など用途が広い。クルマより優れていると思われるところもある。狭い道でも、少々の倒木があつても、馬ならば進むことが出来る。草を食わせればいいのだから、ガソリンスタンドのないところにも行ける。クルマはそうはいかないが、ポンコツになつたら丸ごと食べてしまえる。

古くから、甲斐は馬の産地だったようだ。平安時代、甲斐と信濃は一、二を争う駿上馬の産地だとの記録もある。馬は冷涼な気候を好みから、草と水が豊富にあり、夏涼しい甲斐、信濃の山岳部は育てるのに恰好の地だった。

信玄はまず信濃に攻め入つた。つまり、トヨタとニッサンを吸収合併したのである。かくして信玄の快進撃が始まるが、しかし、その甲斐の騎馬はどこから来たのだろうか、謎はなお残る。

■1944年甲府生まれ。地方出版社「山梨ふるさと文庫」を設立。「横溝正史殺人事件あるいは惡魔の子守歌」でミステリー作家としてデビュー。「闇かがやく島へ」で角川ミステリー・コンペグランプリ受賞。近作「青銅本舗・信長殺すべし」(講談社)。

## あなたはどちらを選ぶ？

佐藤眞佐美

敗戦後、力道山が空手チョップでどでかい外国人をめつたやたらと殴りつけるのを見て、当時はくらはどれほど溜飲をさげたことだろう。それに刺激されたわけでもないのだが、無謀にもほくが生身でプロレスを挑んだ相手は、マフダのT字型三輪車であった。抱きついたまま崖を転落、結果は悲惨で、左鎖骨および右肩甲骨脱臼、肋骨左右表裏13カ所骨折。そのときほくは、三途の川を半分以上渡りかけていた。20歳のときである。

「車庫の隣の0号室に移されるらしい」

「ああ、これはもう駄目だ」

「あそこは死に部屋だ」

耳元で聞き覚えのある声がする。身内がみな集まり、どうやら自分の死について語っているらしいのだ。ああ壳春禁止法以前に経験しておくのだったと、それだけが心残りだった。

半年を寝たきりで過ごし、奇跡的に一命をとりとめた。やっと起き上がりまでになったある日、堂々たる体躯の若い看護婦がほくに背を向けた。レントゲン室までおぶって行くという。痙攣でがらがらだったので、彼女は軽々とほくを背負った。重れたほくの手は、ちょうど豊かな胸の上にあった。刀折れ矢尽き骨折し脱臼しているというのに、手だけは正常に作動して、ぎっちりとふくらみを握ってしまった。生き返った。やれ嬉しや。この際頑だ体型などと、貴沢いってはいられない。

蜜勇効を奏し彼女とデートの約束にまで発展するのだが、神もいたずら好きじゃありませんか。ほくの身長は161センチ、彼女は166センチ70キロ。キスするときは梯子、あのときには絶対に正當位で、などと思案していると幸か不幸か、ほくの背骨が寝ていてる間に10センチ近くも伸びて狂喜した。これ誇張ではない。三輪車様さまと感謝したのも束の間、歩き回れるようになって6ヵ月後には、またもとの161センチに戻るという不運。「地位も名譽もいらないが、わたしやもすこしあがほしい」とある漫才師の喫き節を、切実な思いで聞いたものである。

■1939年北海道生まれ。日本児童文学者協会・日本児童文学研究会会員。著書に『青春！大東京妖怪ゾーン』(ポプラ社)『文ちゃんのはるかな知床』(北海道新聞社)。近著に『栄光ふたたび—山梨学院大学箱根駅伝物語』(山梨ふるさと文庫)など。

ふるさとの土を芸術に  
信玄公の時代に由来  
甲斐路の陶芸「能穴焼」

ゲスト  
はやし しげまつ  
**林 茂松氏**  
能穴焼窯元主人

ホスト  
はやの きよし  
**早野 潔**  
早野組社長

伝統に咲いた花  
焼物ひと筋の家系

早野 穴山の窯を私がはじめてお訪ねしたのは、まだ20代の頃だったような気がします。先生のお作は今も大切にしています。時に向かい合っては、静かなひと時を過ごしています。

先生はお父様の跡を継がれて、二

代目でいらっしゃいますね。能穴焼というのは、お父様がお付けになられた銘名ですか。

林 はい、先代が名付けたものです。それまで山梨は焼物の不毛な地といわれています。そこに父のこだわりと、勵みがあったのだと思います。

能穴焼の能は、「能見城」の能から探っています。これは武田勝頼の時

代の、新府城の出城として、この小高い山が、私の處のすぐ目の前にあります。この能と、穴山という地名の穴とを組合せて、能穴焼としました。

早野 能穴焼の成果は、しかし、一朝一夕でなし得たものではなく、蓄えられた家系の力というものを感じます。先生のところは、もとより土と深い関わりのあるお家柄であります。その歴史は武田信玄の時代にまでさかのほることができます。

林 祖先は加賀の出です。その祖先に、藤原秀郷林六郎左衛門という方がおいで、武田家に仕えて甲斐に参りましたのがはじまりです。今の積翠寺に住み、お庭焼きをしたといいます。現在、武田神社に、その先祖の碑があります。

早野 当時の焼物といいますと、どんなものだったのでしょうか。

林 お庭焼きといいましても、日常雑器でしょうね。食器など、生活に密着したものでしょう。

焼物は土と深い関わりがあります。土とともに、住まいも移り変わっていきます。積翠寺の土を掘り尽くした先祖は、やがて甲斐へ参りました、



早野 潔

■林 茂松

二代目能穴焼窯元主人 昭和18年笛吹市穴山町生まれ  
昭和48年二代目を継ぐ  
昭和53年第1回窯元展を穴山にて開催  
第10回日展初入選 現在日展会友 現代工芸会員 山製造形美術会会長 白鶴会副会長  
〒407 笛吹市穴山町4281  
☎0551-25-5047

拠点といたします。ここで鬼瓦に取り組み、藝術性も認められまして、各地の神社仏閣へ納めていました。

さらに穴山の土が良いということで、ただいまの地に移り住み、窯を作りました。

早野 先生のお祖父様にあたられる方ですね。

林 はい。こうした歴史のなかで、父は本格的な焼物を志し、京都に修業に出、その後は東京目黒で窯を作り、戦争を機に、穴山に戻りました。

早野 そこで能穴焼の第一歩がはじまっていくわけですね。そして、先生が誕生された。お父様の背中を見て、二代目の才能を育まれていったわけですね。

恵まれた自然環境  
穴山の風土を活かして

早野 甲斐路の陶芸と称されるように、能穴焼は山梨を代表する陶芸と見えられていますが、これはふるさとの風土から発想し、ふるさとの土を材料にして焼いたはじめての作品である、ということを指すのだと思います。

作家にとって、ふるさと性というの



林 茂松氏

は大切なことなのでしょうね。

林 穴山の周辺には古代人の住跡や、その時代の生活用具である土器や石器などが豊富に散在しています。また、自然環境や情感にあふれています。ものを作る心の環境として優れています。

それから、陶芸の場として必要な粘土、土石類が採れます。また、燃料である松薪も近隣にありました。恵まれた環境だと思います。なによりも、作家としての私の人間形成に、大きな感受性をもたらしてくれました。

早野 先生がこの道に進まれることを決意されたのは、お幾つの時ですか。

林 高校を卒業する頃ですね。将来のわからない仕事は危険だと忠告してくれる人もいました。あるいは、早く何処かの内弟子になるのがいいなどと、提言してくれた人もいました。父の周辺でも賛否両論だったようです。

そうしたなかで決心の要因となったのは、父の仕事が世の中で認められるようになったということがあります。

早野 お父様の作品は日展に何度も入選していますし、岩石を思わせるような堅固なフォルムのオブジェ風陶彫が特長で、高い評価を獲得されましたよね。

林 それは、やればやるだけ甲斐のある仕事である、という認識を私に与えてくれました。

早野 お父様のご苦労も、身近で見てきたのでしょうか。

林 父の仕事の素晴らしいことを知ったのは、父の跡を継いでからで、むしろ子供の頃に感じていたのは、生活の苦しさの方でした。あの頃は、焼物でいわゆる飯を食うというのは大変でした。

たとえば薪ですが、良質の赤松を買い求めるのは、当時のわが家としては大金でした。そうして作っても、そのなかから幾つ作品となるものが採れるかどうかわかりません。しかも、良いものが出来ても、はたしてそれを買ってくれる人がいるかどうかもわかりません。

ただ、あったのは、父の情熱だけでした。

### 父から学んだこと 遺された一冊のノート

早野 お父様からは、どんなことを教えられましたか。

林 あまり教えられたことはありませんでした。自分で見て覚え、作



りなさい、ということでしょうか。

基本的な作業は教えてくれましたが、あとは手で教えたり、伝えたりするわけにはいかないもので、感覚的なものなんですね。

とにかく、時間があれば湯飲み一個でも作り続けることが勉強です。数を作らなければ、良いものは出来ないんです。作っては壊し、作っては壊していくことが修業です。

こうした地道な、職人としての修業があってこそ、芸術への道がひらけていきます。

早野 お父様が教えてくれたのは、黙って励め、ということでしょうか。

林 ただひとつ、「捨て目」を使いなさい、ということを教えられたことがあります。あまりみなさん使わない言葉なんですが。

早野 さて、どういうふうに解釈したらいいのでしょうか。

無駄と思われることでもよくものを見なさい、目配りをしなさい、という意味でしょうかねえ。

林 その時、その時、いろいろに解釈してみるんです。ばやばやして



いないで、何処を歩くにも石ころ一つでも見ていれば、それが作品につながる、ということもあるかと思ったりもしています。

早野 お父様が亡くなられたのは、お幾つですか。

林 63歳でした。脳溢血で、突然のことでした。私が30歳のときです。

もうひとつ、父の遺していってくれたものがあります。死後に発見したのですが、ノートが一冊出てきました。

昔から焼物というのは非常に大雑

把なところがありまして、釉薬にしましてもわりあいと適当に配合していたんです。ですから、同じものが次に出てくるとはかぎりません。

それで父は、たいそうこのあたりを科学的に考えていまして、釉薬の細かな配合や、焼き方の指示まで、詳細なデータにしてノートに記していました。

早野 そのノートによって、同じものを、何代にもわたって作ることが可能になりますね。

林 父からの伝承であり、宝だと受け止めています。

早野 寂黙なお父様の心が伝わってくる、いいお話をですね。

### 「深海の遺産」の発想 船旅で知った海の神祕

早野 お父様が今日生きていらしたら、先生の作品を御覧になって、どんなことをおっしゃるんでしょうね。たぶん、たいそうお褒めになるのじやないでしょうか。

日展の入選も、お父様の入選記録を越えて、平成6年までに、すでに13回も入選され、堂々たる評価を得ています。

林 いえいえ、まだまだ、道の半ばです。

早野 先生が今、追求されているテーマのひとつに「深海の遺産」がありますね。海の深い色合いが素晴らしいですね。

これは、海をモチーフに取り組んでいるオブジェで、かなり現代的な作風ですね。

林 その昔のことですが、船で横浜を発って、フィリピンへの旅をしたことがあるんです。土と窯を支度していって、現地で焼いて作品を作



る、という試みをしたことがあるんです。この海の旅から、すっかり海に魅せられ、憧れを抱いてしまいました。

それは行けども行けども海ばかりの旅で、ひたすら珊瑚の海原です。何日間も、一隻の船とも出会うことありません。時折イルカが私たちの船の回りで遊ぶぐらいです。たいへんイメージをかきたてられました。

また、この深い海の底には何があるのだろうか、その謎を解きたいという思いも起こってきました。海の底にはマンガン断層というカタマリがあるのだそうです。そうした鉱物が人間の財産に思われ、深海で眠っているそうした鉱物を活かして、新しい作品を作つてみたいと希うようになりました。

**早野** 「深海の遺産」シリーズは、大勢の皆さんの期待しているところです。

#### 目を鍛える、肌で知る 文化の視点と空間創造

**早野** 想を練る、という言い方が

あります。陶芸家の日常生活というのは、いったいどのようなものなのでしょうか。

**林** いえ、普通の方の日常とそう変わるものではありません。四六時中難しい顔をして、ものを考え続けたり、制作しているわけではありません。

朝の日課は、犬の散歩です。これは365日変わりません。毎朝、同じ道を散歩するのですが、風景は毎日同じではありません。草花や木や、そして鳥たちが、四季の変化のなかできまざまな営みを見せてくれます。

そうしたことを行つて感ずることは、あるいは創作の糧になつてゐるかも知れません。ものの見方、ということでしょうか。

**早野** それが、お父様のおっしゃる「捨て目」ということなのかも知れませんね。

**林** 時には旅にも出ます。いろいろな方にも出会います。しかし、創作のために、ということではないのです。しかし、そうしたなかから創作のヒントがふと浮かんでくることは確かです。日常生活からの離脱と

いうことで、発見があるのかも知れ

ませんね。

美術館へも出かけます。近年の美術館というのは、とても空間ということを意識して作られていて、洗練されていますね。

**早野** 作品との出会いの場としての美術館も、それ自体、すでに創造的でなければいけないでしょうし、そうでなければいけませんね。

**林** 北澤美術館も、長坂の清春藝術村などの建築も、早野組さんのお仕事ですよね。

**早野** PRめきますが、新しいところでは河口湖美術館も、私どもがお世話になったところです。

そうしたことを行つて感ずることは、あるいは創作の糧になつてゐるかも知れません。ものの見方、ということでしょうか。

**早野** なにか、見えてくるものもある空間でなければいけないと思います。現代社会においては、文化性が、価値と、意味をもつ時代なんですね。

今後の活動をご期待いたしております。

[構成：三神 弘]



「カレイ 花入」26×26×46cm  
龍玄釉の花入で表面にカレイをかたどった文様があります。電動ロクロを使用して作った物ではなく、ひも作りで時間をかけて作られた物です。形はシンプルですが、カレイの文様と龍玄釉の微妙な色の変化が見どころとなっています。



「深海の遺産 91-3」92×18×70cm  
基本的には波をイメージしていますが、細部には海底にある遺跡の様な物も表しています。深海の遺産シリーズはそれぞれの作品によってイメージは変わりますが、全て作品に共通しているのは「海」を連想させるという事です。表面を意図的に滑らかにしていないのは、日展に初入選した作品以来の特長です。この作品は第30回現代工芸展で会員記念賞に選ばれた作品です。



能穴焼は、初代林茂松が昭和10年(1935) 茅崎市穴山町に、自身の窯場を築いたのがはじめである。古くは天正年間、武田信玄公の「お庭焼き」にその端をなしている。その系譜は対談の中でも紹介されている。

昭和47年(1972) 熱五等に叙せられ、山梨県県政功労者としても表彰される。初代の亡き後、二代目林茂松は陶風を継承しながらも、現代的作風の能穴焼にも意欲的に研究を重ね、氏のテーマ「深海の遺産」をモチーフに、日展、日本現代工芸展に数多く入選する。

能穴焼が「甲斐路の陶芸」として多くの人に親しまれ、愛されているのも風土に根ざしているからである。

安全神話は崩壊したのか  
蔓延する銃器犯罪

## 水、空気、安全はタダだった日本

「豊臣政権の刀狩り、江戸期の兵農分離によって、一般市民が武装するという歴史がなかったこと。これが戦後の日本の平和のファンダメンタルになっている」と論じたのは、社会学者で日本通として知られるボルボネ氏。先進国の中では希有とも言える安國家だった日本。

メガロポリス1,000万人都市東京の夜。深夜の街を徘徊するのは、OLや学生達で、当たり前のようにナイトライフを楽しんでいる。一方、摩天楼の聳えるニューヨーク。ここでは年間で数百件のレイブ事件と数分に1回の発砲事件が頻発する。

「歩道は真ん中を歩く事。なぜなら隅を歩くと路地裏に引き込まれ犯罪に巻き込まれる可能性があるから」。アメリカ旅行のリーフレットにはこのような警告文が並ぶ。

元レーガン政権の中核を担っていたブレディ財務長官が発砲事件に巻き込まれ、半身不随の重症を負った。負傷した彼をシンボルとして、全米で銃規制法案の制定運動の機運が高まり、それが全米ライフル協会などの横やりにあって頓挫している。あるいは済滞している高速道路上で突

然、横にいた乗用車が発砲、通勤途中のサラリーマンが殺害される一朝の恐怖—といわれる事件…etc。まるで対岸の火事といった出来事でスクリーンのワンシーンのように見ていたのではないか。

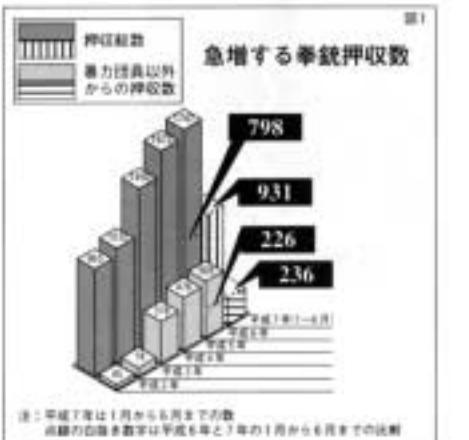
それが一、昨年来、次々と頻発する銃による発砲事件。ファミリーレストランのウェイトレス殺人、銀行の現金輸送者への発砲、八王子のスーパー現金強奪による発砲、そして、最近では中野区の信組職員に対する金銭目的の発砲事件。列挙していけばキリがないほど続発する発砲事件の数々。多くの市井の人々が何故?と首を傾げるのも無理はない。

銃刀法という法律によって銃の所持はおろか刃物すら本来なら携帯してはいけない日本において、不条理ともいえる発砲事件。無差別に響く銃声は、多くの市民を不安におのらせている。

### 発砲事件—昨年の倍増

警視庁の調べによると今年1月から7月までに国内で発生した銃などの発砲による強盗といった事件は、

すでに12件。これは警視庁開設以来の最悪のペースで、当然のことながら、太政官政府開闢以来のワースト。昨年同期の5件という数も尋常ではないが、すでに今年は2倍以上のハイペースで発生している。そして、注目すべきことは、特に、昨年から発砲事件が、金銭目的の強盗といった目的に使われていること。これは従来、短銃や散弾銃などを使った怨恨などによる人を殺傷することが目的だった旧来の犯罪とは一線を画してきたこと。明らかに銃などが、これまで刃物などによって達成されてきた、金品や金銭の強奪を目的とした犯罪の補助アイテムとして登場してきたことが挙げられる。



化したものだ。これによると押収された銃銃銃の数は、比較級的に増加していることが見てとれる。この背景としては、ロシアの政情不安や、中国の経済開放政策によってトカレフといった安価な銃銃銃が数多く流入したこと、暴力團新法の導入によって疲弊した非合法組織などが、無差別的に銃銃銃の先鞭をつけたのは、こういった非合法組織の活動資金源としての銃銃銃であった。

しかもこれら密輸された銃銃銃は、もっぱら一般市民に銃口が向けられることはなく、これらの団体同士の内部抗争に使用されることが常だった。覚醒剤をはじめ、銃銃銃などのアイテムは基本的に非日常の中の世界の出来事であって、市井の一般市民には何ら関連性を持っていない。

しかし、政府刊行物である犯罪白書などを見ると、ひとつのイメージが沸いて来る。このように銃銃銃などを使った犯罪が、強盗といった広範な犯罪の補助アイテムとして使用されている根拠、これはどういうことなのだろうか。

図を参照して欲しい。これはここ数年の押収された銃銃銃の数をグラフ

のうち30%を占める505丁の銃銃銃が、非合法組織以外から押収されている。

### 市井流入で表面化した銃

非合法組織外押収の銃銃銃が激増したことにより、これまで発生していた犯罪の中で、凶器の種類が刃物類から一挙に銃銃銃へ変換が図られた。これまでのように例えば金融機関を狙った犯罪では、その多くが包丁やナイフといった刃物類で、使用されても散弾銃くらいまでだったものが、市民社会の中に安価な銃銃銃が入り込んだがために、犯罪使用の凶器が格段の発展を遂げてしまった。—民間人が銃銃銃を保持する時代—そしてそれが正にマスコミなどの耳目をそばだたせる事になる。銃銃銃犯罪の増加は、銃銃銃が暴力團といった内的世界から市民社会にまで到達してしまった。一連のマスコミ報道で銃銃銃犯罪が突出するのはまさにそんな理由なのだ。

銃銃銃大国アメリカでは、人口2億人に対して4億丁の銃銃銃があるという。1億2,000万人の日本では果たしてどれ程の銃銃銃があるのだろうか。

[文：新谷敏之]

山梨を拠点に、限りなく広がる物流の可能性。

# 物流新時代

TRANSPORT  
+α



あらゆる可能性を  
創造しています。  
「甲府通運」は流通の  
基本を大切に、  
さらに新しい分野の開拓。  
物流に伴う様々な事業、  
ただ、物を運ぶだけではない  
どんな物でも、どこへでも、  
安全に運ぶ  
+αの創造、

## 事業内容

- 一般貨物輸送……一般、常用、専属
- 重積品輸送……取付け、取りはずし搬出業
- 入出荷請負……荷造り・梱包作業、出向代行業務
- 引越しお手伝い……ご家族のお引越し、事務所・工場の移転等
- J日コンテナ輸送取扱い
- 一般貨物全国定期便、宅配便、航空便取り扱い
- 保険代理業務

## 甲府通運株式会社

本社 〒409-38 山梨県中巨摩郡田富町流通田地3329-1  
TEL.0552-73-0611 FAX.0552-73-9332  
田富営業所 〒409-38 山梨県中巨摩郡田富町流通田地3211-14  
TEL.0552-73-5471 FAX.0552-73-6277  
東京営業所 T 174 東京都板橋区東坂下2-3-10  
TEL.03-3967-6001 FAX.03-3967-6124

## 企業ウォッチング

# 老人保健施設ノイエス

理事長

今井 立史 氏



### 老人保健施設ノイエスデータ

平成6年6月完成。医療法人立史会・今井整形外科の地域医療の実績を背景として、高齢化時代に開いた。まったく新しい老人保健施設。病院と老人ホームの両方を備えた施設としては日本をあげている。病院から家庭への復帰、あるいは在宅でも機能復興、体力回復など、より高い健康状態を維持するためのリハビリテーション・介護・看護の機能を行なっている。また痴呆症治療に力を入れ、建物にはそのための数々のノウハウが随所に生かされ、老人本位の快適を作りあげている。利用方法は、本人の希望や状況により異なるが、入所の場合個人費用83,000円(1ヶ月)。通所(日中)は900円(1日)。TEL.049-38中巨摩郡和田河原町443番0552-751-1165

高齢化社会はすぐそこまで迫ってきている。こと山梨県は、全国平均よりも早く高齢化の波が押し寄せてくるとされている。老人介護、寝たきり老人、痴呆性老人…、他人事ではなく、明日はあなたの問題かもしれない。今井整形外科医院院長・今井立史氏にも、痴呆性老人の問題は突然に降りかかった。母親が重度の痴呆症にかかってしまったのだ。「家から急にいなくなったり、夜中に奇声を発したり、痴呆性老人をかかる家族の大変さをしみじみ感じましたよ」。

### 家庭・社会への復帰を目指して

老人保健施設ノイエスは、そうした今井氏の経験に基づいて設計された。病院と老人ホームの両方の機能を備えたまったく新しいタイプの施設だ。70歳以上で歩行、食事、排泄、入浴などの日常生活について介護が必要な人、または痴呆症の人が入所できる。ここでリハビリを行なって、家庭へ、あるいは社会へ“復帰”することを第1の目標とする。病院と家庭の中間的施設だ。「整形外科医として、失われた機能を回復するということには興味がありまして、いずれはそういうことをしたいなあと思っていました」。平成4年7月に母親が亡くなり、2カ月後の9月にノイエス建設の決断をした。「おふくろを連れていろいろな施設を回って、現状の問題点を見てきましたから、ノイエスにはさまざまな工夫がされています。おふくろがいろいろ教えてくれたようなものです。親孝行のつもりで建てました」。

### 介護に勝る薬なし 人と人とのふれあい大切に

こうしてノイエスは平成6年6月に完成。3階建て

で、1階が重度の痴呆症の療養フロア、2階が一般の痴呆症の療養フロア、3階が歩行困難などリハビリや介護が必要な人の療養フロアになっている。「ほとんどの施設が、重度の痴呆性老人を最上階に置き、鍵をかけて部屋に閉じこめておくんです。これでは人間らしい生活なんてできやしない…。ノイエスのまず第1の工夫が、重度の痴呆症療養フロアを1階にしたこと。療養室に面して1~3階まで吹き抜けの中庭があって、ここを自由に歩き回れるのです。動物に接して心が和めばと、犬や小鳥も飼っています。1階と2階も中庭の螺旋階段でつながっていて自由に行き来できますし、とにかく束縛せず、開放感あふれるつくりにしました」

この他、家庭的な雰囲気をだすために、風呂は家族風呂にしたり、トイレを集合にせず部屋の隣に設置したり、療養室に前室を設けゆとりをだしたりしている。リハビリに関しても、プールやジャグジーパスを設け、水中運動をしてバランス感覚を養い、転倒による骨折の防止をしている。整形外科医ならではの工夫だ。

「寝たきり老人が増えるというのは、病院の姿勢が悪い。ベッドに拘束して歩かせず寝たきりになってしまいがちです。そして痴呆症へとなってしまう。これは医者の扱いによって、介護の仕方によってある程度防げる問題です。ノイエスには介護士やケースワーカーなどの専門スタッフがいて、日常生活の中での小さな変化も見逃さないようにしています。異常行動には、必ず原因があるのですから。私は介護に勝る薬はないと思っています」。

[取材：桑本美佐穂]

# びよんこの会

20年間続く童話創作サークル

子どもたちの夢を創り育ててきたお母さんたち

## 家事の後での童話創り コツコツ続けて20年

毎月第3日曜日の午後になると、市川町民会館の研修室に童話好きのメンバー6人が集まってくる。それぞれ家庭の主婦のために、家の中の仕事を手早くかたづけて「びよんこの会」へと駆けつける。発足して来月でちょうど20年になる。「運々とした活動」と謙遜するが、20年続けてきた努力と童話にかける情熱は素晴らしい。

市川幼稚園に通っている園児のお母さんたち—というのがそもそもその始まり。市川幼稚園が絵本をたくさん所蔵していたこと、子どもたちに絵本を読み聞かせているうちに絵本の楽しさを自分たちも実感したこと、現在びよんこの会代表の古屋詔子さんが当時、娘のために紙芝居や絵本を作り、それを娘が幼稚園に持っていくって評判になったことなどが重なって、童話サークル「びよんこの会」が結成された。

発足から指導にあたっているのは、同じ市川大門町に住む山梨学院短期大学非常勤講師で、日本児童文学研究会会員の佐藤真佐美さんだ。メンバーからは「めった打ちにされる（笑）」「辛らつだ（笑）」「厳しい批評（笑）」と、恐れ（？）られている。

勉強会は月に1回。前述のように毎月第3日曜日に行われる。発足当初は、皆でテキストを選んで、グリム童話やオーヘンリー作品、新美南吉などの作品研究を行なってきた。「当番を決めて、その当番さんが作品を細かく調べたり、研究してきたりして、それに対して他の



月例の勉強会 童話への熱い想いを語り合う

メンバーが意見を述べるんです。かなり厳しい意見もでたりましたよ」と古屋さんは振り返る。

最近は、世間で話題になっている作品などについても、皆で討論するが、主に、自分たちの創作童話を批評し合う。古屋さんは続けて「まず、作品を書いてきた人が、メンバーに読み聞かせます。それに対してメンバーが、いろいろ文句（笑）をいっています。よくわからないとか、面白くないとか、ストーリーの流れがよくなかったとか…」と話す。とはいえ、そんなに肩ひじ張った堅苦しいものではなく、時には、お茶を飲みながら、お菓子を食べながら雑談にふけることもある。



びよんこの会のメンバー 会誌「びよんこ」を持って

## 想像力豊かな子どもに育ってほしい 町立児童図書館でボランティア

童話の題材は身近なところから拾い上げる。最新刊の会誌「びよんこ」四号では、母と娘の関係、子ども同士の友情、身近な植物をテーマにしたものから、カエルの目から見た環境破壊の問題まで、いずれも子どもの視点に立って書かれている。“お母さんたち”ならではの創作の工夫が感じられる。「作品はほとんど、家事が終わった後の夜に書きます。20年の間には、家族の生活のパターンも変わって、創作する時間帯も変わってきましたよ」と、メンバーの1人が懐かしそうに話す。

メンバーは一様に「地味な活動ばかり」というが、会の中からは、山梨日日新聞社の月間児童文学や月間小説の入選者が出ていたり、県芸術祭の児童文学部門や小説部門の入賞者が生まれたりしている。

月例の勉強会の他に会の活動としては、「地域の子どもたちとの関わりを持ちたい」と、市川大門町立児童図書館の司書をボランティアでしている。主に、小学校低学年を対象に、童話を読み聞かせたり、紙芝居をしたり、一緒に遊んだりもする。時には子どもを連れたお母さんたちもそれに加わる。「20年もやっているでしょ。小学生だった子も、高校生になり大学生になりたりして、ひょっと顔を出してくれたりすると『ああ、立派に育って』って嬉しくなりますよ。それに図書館にいる新しい童話と出会えますし、びよんこの会の活動にはとってもプラスになっています」と古屋さんはいう。

「今の世の中、映像が発達し、溢れています。だから子どもたちが、文章を読んで想像することをしなくなっているんです。自分の頭の中で想像し、考える子どもになってほしい」（メンバー）。その手伝いを陰になり日向になり、今日までやってきた。

今年中に「びよんこ」五号が発刊される。今は、原稿の最終調整に余念がない。「若い人たちにどんどん入ってきてもらいたいですね。『童話を創作するんだ』なんて構えないので、子どもに話しかけるような気持ちでいいんです。子どもと一緒に楽しめれば、それでいい。もともと、『子どもを寝かせつけるために作ったお話』が出発なんだから」。お母さんたちの素朴で温かい営みはこれからも続く。

[文：桑本美佐穂]

### ◆びよんこの会◆

“すぐれた文学作品の鑑賞と、自らの創作により、児童文学への理解を深める” “地域、子どもたちの文学的めざめに役立つ活動に積極的に参加する”ことを目的とし、昭和50年11月発足。月1回の勉強会、会誌「びよんこ」の発刊、市川大門町立児童図書館のボランティア、講演会の開催などを主な活動としている。会員は現在6名。指導には、山梨学院短期大学非常勤講師で日本児童文学研究会会員の佐藤真佐美氏があたっている。現在、会員募集中。

代表：古屋 詔子  
〒409-36 西八代郡市川大門町1641  
TEL 0552-72-1315

## 早野グループ4社から 一番ホットな情報を届けします

### ■ 自然にやさしいエコメロウマット

遊歩道・アプローチ・駐車スペース等の舗装にピッタリの商品「エコメロウマット」が大変人気を集めています。既に河口湖ステラシアター・土岐市陶芸公園等の官公庁工事にも採用され、又民間工事においても個人住宅からスーパー・工場等の幅広い場所で施工されています。

エコメロウマットは豆砂利(5mm~10mm)とゴムチップを混合し、ウレタン樹脂で固めたもので、自然環境保全に役立つよう、産廃ゴムをゴムチップとして有効利用したりサイクル商品です。①弾力性に富み、歩きやすい②透水性で表面に水がたまらない③豆砂利の色彩が自然の感じをかもしだす④樹脂の色が透明なので好みの色が自在に出せる⑤抜群の耐久性があるので安心して使える、等が特徴です。施工方法は、ブロック製品を敷き並べる方法と現場で直接混合し、敷きならす方法の2種類があります。お問い合わせは八田プラントの水上まで。(TEL 0552-85-3311)



■ 早野組  
甲府市東光寺1-4-10 TEL 0552-35-1111

### ■ 「新型サイノス誕生」

すでにご承知の通り、トヨタのコンパクトクーペ「サイノス」が、フルモデルチェンジしました。

「人に優しい基本設計」をもとに、取りまわしに優れたコンパクトなボディー、ターセルでおなじみになりましたUVカットガラスの採用、さらにはエアバックも標準装備して(一部グレードを除く)、安全面への配慮も万全です。

さらに、サイノスは、他社の同じクラスの車と違い、スタイルリッシュなクーペ専用ボディーとしてこだわりをもって独自に開発され、そのボディースタイルは、バランスの完成度を高めています。

その上、新開発、クラスNO.1の低燃費エンジンを搭載し、DOHCならではのパワフルな走りと優れた低燃費を実現いたしました。

安全・新設装備はもとより、スタイルの面からも、また、経済性の面からもよりお求めやすくなりました。是非一度ご覧くださいませ。社員一同心よりお待ち申しております。

※お客様相談電話  
フリーダイヤル 0120-325055



トヨタビスタ山梨㈱  
本社：甲府市朝氣3丁目10-21 TEL 0552-32-5511

### ■ トヨタホーム統一工場見学会開催

トヨタ自動車が住宅部門に携わってから、今年で20年を迎え、クルマ造り半世紀で培った最新の技術・設備を備えた住宅生産の専門工場が、春日井・栃木・山梨の3ヶ所あります。

トヨタでは、この3事業所で統一の工場見学会「トヨタホーム20周年・家造りテクノロジー体験日'95」を開催致します。

各種イベントが盛り沢山で住宅生産ライン見学や、握手見学、外壁実験、ヘルスチェック、ちびっこ広場、木工教室等催しものが取り揃っています。また、昼食や、お子様にはおやつがありますので、家族みんなで楽しめます。

一生に一度の家造り、心より皆様のお家造りをお手伝いし、少しでもご参考になればと願っております。ぜひ、一度、ご来場されてご覧になってみてはいかがでしょうか。社員一同お待ちしております。詳細につきましては下記にお問合せ下さい。

また、当日都合の付かない方でも、随時工場見学を受け付けておりますので、お問合せ下さい。

トヨタホーム山梨㈱  
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL 0552-75-1234



### ■ 甲府通運㈱は11月2日で創立45周年です

戦後の混乱期から、日本経済の自立安定の気運が高まる中、昭和16年に設立した甲府小運送自動車㈱を、昭和25年甲府通運㈱に改称しました。

この間、神武景気、岩戸景気、いざなぎ景気があり、また、二度のオイルショックやバブル崩壊と、輸送量の増減には多くの起伏がありました。荷主のニーズに合ったサービスを展開して来たことで、比較的好調を維持でき、今日に至っています。

現在では、創立当時を知る者も少なくなりましたが、先達たちの志を受け継ぐべく、役員、従業員一同、50周年目の21世紀に向けて邁進する所存です。

#### 甲府通運 準優勝!

9月3日(日)、山梨県トラックターミナル労務改善協議会、第14回従業員ソフトボール大会(参加14チーム)が、増穂町の殿原スポーツ公園で行われました。

当社は平成5年、6年と連続優勝を果たし、今回は初の3連覇に向けて練習を重ねてきました。

試合は好ゲームが続々中、選手、応援団が一丸となつた努力が実り、優勝こそ逃しましたが、見事準優勝に輝きました。

- |                |
|----------------|
| 1回戦 18-2 小林運送㈱ |
| 2回戦 13-3 御藤進運輸 |
| 3回戦 2-1 御城北陸送  |
| 4回戦 9-11 櫛中部   |



甲府通運㈱  
本社：中巨摩郡昭和町河西1043 TEL 0552-73-0611

生来好きな道だったのか  
それとも早魃の悲惨さに打たれて  
奮闘したのか

## 土木史に不朽の名をとどめた 窪田幸左衛門

(くぼたこうざえもん)

上野 晴朗

うえの はるお  
1923年山梨市生まれ。歴史家・作家。県立図書館郷土資料室を経て67年から文筆活動に入る。著書に「甲斐武田氏」等多数

山梨県下三大堰の二つまでが流れ、しかも両村堰など由緒深い数々の用水路をかかえる明野村は、土木史の上からも県下で注目される村である。30数年前、この村の村誌編纂をたのまれて、浅尾新田の窪田幸左衛門の肖像画と、手製の測量器具を出してもらい、組み立てて眺めたときの感激を私は終生忘れないだろう。

肖像を見ると、岩に座したその風貌は智的なひらめきが横溢していて、手甲脚半に草鞋掛け、杖と菅笠を傍においたその姿は、まさに土木技術者の面影を如実に伝えたものだった。

幸左衛門が使用していた測量器具のほうは手製で、組み立て式になっていて、差し込みの中間に平板が置かれ、最上部に分度器が付けられている。取りはずすと40cm四方くらいの木箱に納まってしまう。幸左衛門はおそらく、この測量箱を従者にかつがせて、請け負った堰普請の工事現場を駆け回っていたのだろう。

江戸時代の測量については、「水盛り」というやり方があった。細長い板に溝を刻み、水を盛り、これを土台面などにのせて水平を定める方法

である。ほかに灯油による「見通し」という方法もあった。けれども一定箇所の建築などにはそれで良いかも知れないが、堰とともになるとそうはない。

それだけに幸左衛門が當時としては、誰もまだ真似ることのできない、



窪田幸左衛門肖像（浅尾新田窪田幸左衛門）

こんな測量器具を早くもつくって、東奔西走している姿に私は圧倒された。これは和算よりも洋算学の技術である。

窪田幸左衛門は須玉町上小倉の丸茂左衛門の弟で、明和8年（1771）に誕生、寛政2年（1790）20歳のとき、望まれて浅尾新田村の窪田忠左

衛門の妹婿に迎えられた。この家は浅尾堰開創の恩人の一人窪田重右衛門の末流で、そのため忠左衛門はこの堰筋の管理を任されており、幸左衛門はその手伝いをするようになり、忠左衛門が老齢化したあとはその管理の一切を引き受け、高度の土木技術を身につけていったようである。

彼が住んだ茅ヶ岳山麓は、一見広々とした高原地帯が展開し、風光にも恵まれて、あたかも桃源郷のように見える。しかし地質学上からいうと、この高原地帯は水源が極度に乏しく、田用水は勿論、日常の飲用水にも事欠く旱魃常習地帯であった。そのため朝穗堰流域では「水こじき」の言葉が生まれ、堰には「喧嘩堰」の異名まで付けられている。十日も日照りが続くと、牛馬を使って塩川まで飲用水を汲みに行かねばならない。その牛馬に付ける水桶を、地域の人々は「牛殺し」と呼んでいる。水を何回も運ぶ牛馬も大変な重労働だったのである。

その上茅ヶ岳山麓は高原といつても、地形がきわめて複雑である。この山麓に水を通す場合、まず平渠と遂道の連続となる。場所によっては

窪田幸左衛門使用的測量器  
(浅尾新田窪田幸左衛門)

朝穗堰の流れ須玉町八番に取入口がある

浅尾堰時代に江草村の御用詰所輪図  
窪田幸左衛門の肖像面の下に描かれている  
文化10年5月と見える

揚柵になるところもある。江戸時代に入り、測量・掘削・制水・引水の技術が格段に進んだとはいっても、口伝がほとんどの時代、このような測量器具をこなすことはきわめてむずかしい。その上技術者というばかりでなく、忠左衛門に代わって浅尾堰総代を務めるようになって、堰管理のむずかしい局面にも立たされ、下郷との対立抗争の政治的駆け引きまで伴って、その矢面に立たされて苦吟することもたびたびであった。

下郷を代表する中村六郎右衛門との対立などみると、結局、喧嘩堰の異名をとった浅尾・穂坂両堰の対立抗争に振り回される形で、その名前がたびたび登場するのである。しかし上郷村民や、堰管理役人などの人望はきわめて厚く、最後まで堰流水の技術者として重んぜられている。その測量の技術を高く評価されて、次第に県下全般の水利事業に手をかすようになり、しまいには遠く県外にまで頼まれて診断に出かけている。

窪田家に残された資料からみると、隣村江草村の嘉納堰（文政7年）を皮切りに、比志村の定式用水路（文政9年）、穴平村の遠照寺堰（天保2

年）、神戸村の用水堰（天保3年）、都留郡平栗村用水路（天保4年）、柳平村など八ヶ岳の谷水を引く願い（天保12年）、甲府上水（天保14年）、一宮村の宮堰の再修工事（午の年）など、彼の測量技術をもって成功に導いた堰は数知れない。

そのほか見立ての要望を受けて出張した、谷村辺用水路、上野原宿用水路、遠くは駿州安倍川通りにまで及んでいる。全体的には地元の茅ヶ岳・八ヶ岳山麓が多く、次に常時用水に飢えていた都留郡下に多く、その足跡は十日市場堰、法能の宮原熊井戸堰、新倉遂道掘抜き、川茂の小形山堰などの見立て、診断には縦横に活躍している。

前回長田円右衛門で紹介した御岳新道開削にも関係をもち、測量を担当してやった。さらにあの有名な「野呂川話」にも登場、夜叉神峠に迷道をつくるための測量を引き請けている。安政2年（1855）2月1日、84歳をもって病没したが、辞世の歌に

時その場所を見立て測量して、工事にこぎつける段取りまで器用にこなしてくれる人物は稀有の時代、窪田幸左衛門はまさに引っ張りだこの感があったのである。

その人柄の魅力と人望の寄つくるものは、幸左衛門の人並みはずれた信仰心の結果によるものであった。熱烈な日蓮宗信者であって、身延山や小室山とも深い関係をもっていた。天保4年63歳のとき、江戸の画家石湖に真像を描いてもらったが、その遺訓の中に「われ窪田重右衛門の七世の孫忠左衛門が妹を妻として、その家を分たれしより、常に祖業の空しからんことを恐れ、思ひおこして専ら水利をつとめしをもて、おほけなくも、今浅尾穂坂両堰の惣代仕奉れば、子孫わが志をつぎて、ゆめ業な怠りそと、事の由かいづけて後に示すにこそ……」の言葉をのこしている。安政2年（1855）2月1日、84歳をもって病没したが、辞世の歌に

世の中のいき々の世話をもよより  
古里へかへる足のかるさよ  
と、見えている。その技術ばかりではなく、人世観も達観していた様子が偲ばれる。

# 名画に描かれた動物たち 5

羊飼いはキリスト？羊は12使徒？

山本 育夫

やまもと いくお  
詩人

ミュージアム・マガジン・DOME（ドーム）編集長

## 羊飼いは魔法使い？

山梨県人ならずとも、ミレーのこの「夕暮れに羊を連れ帰る羊飼い」を知らない人は少ないのではないだろうか。広大な地平線。今まさに沈んでいくこうとしている大きな太陽。帰途につく年老いた羊飼いと羊たち。赤い舌を出して、息を整えながら羊が群れから離れないように見守る黒い犬。

この作品は1863年のサロンに「鉢（くわ）を持つ男」などと共に出品された。「空は灰色で、低く夕陽が落ちる。埋葬される老王のように。私たちはこれほど雄大な印象を想像することができない。……私たちはもはや絵と対面しているのではなく、自然を目の前にしているのである」当時の先鋭的批評家ザカリ・アストリックのこのようなサロン評が残されている。

もっとも当時この絵を見て「魔法使いのようで気味が悪い」という声もささやかれた。なるほど牧羊杖を胸のあたりに抱えて、足取りも重く帰路につく羊飼いの表情は、疲れ果

てているためか沈鬱に見えるし、群れをなす羊たちも心なし頭を垂れ、見ていて気持ちがいいという絵でもない。一日草を食み、歩き続けてきた羊たちは、牧舎に戻ってどんな夢を見るのだろうか。

## たくさん描かれている羊飼い

実はミレーは、1853年から1866年の13年間に、11点の羊飼いの絵を描いている。帽子をかぶり、大きなマントをはおっている姿は変わらないのだが、どれも「夕暮れに……」の羊飼いよりも若々しい感じがする。土手に立って遠く草を食む羊たちの姿を見ている羊飼いや、木に寄りかかりながら見守る羊飼い、木陰に向足を投げ出して休んでいる羊飼い、旅人に道を教えている羊飼い……と、そこに描かれている羊飼いは、羊を中心にまわっていくありふれた、しかしあげがえのない日常が描き出されていて楽しいし、そのどことなく日本の浮世絵をほうふつとさせる構図も興味深い。

ミレーは浮世絵を見ていたとい

から、この印象はあながち的はずれでもないかもしれない。さらにつけるならば、あの印象派を決定づけた感のあるモネの「印象、日の出」という作品が、第1回印象派展に出品されたのが1873年のこと。ミレーが死んだのは1875年60歳の年であったから、同じ時期に二人はサロン周辺にいたことになる。ミレーの夕陽の印象が、モネの夕陽に反映されていないとも限らないではないか、と考えて年譜をたどってみると、第1回印象派展が開かれた時期ミレーは、普仏戦争を逃れてシェルブルに移っていた。サロンへの出品も1870年までとあるから、さてどんなものであつたろうか。しかし、晩年のミレーが、印象派展を見ていたと想像するのは楽しい。

さて、ミレーの、羊飼いを描いた一連の作品を見比べていると、なんだか羊飼いと羊をめぐる生き生きとしたスナップ・ショット、あるいは短編映画を見ているような気分になってくるから不思議だ。そういう一連の作品の流れの中に、この「夕暮れに……」を位置付けてみてみると、また一味もふた味も違うミレー作品

の魅力を堪能できるに違いない。

## ミレーのワーク・シート

山梨県立美術館のミレーコレクションにも、さらに羊飼いをめぐる作品を増やして、油彩の「夕暮れに……」の前後に並べて見せてくれたら、訪れた人の目を楽しませてくれるだろう。もっともあまり知られていないかもしれないが、美術館には「山梨県立美術館ワーク・シート ミレーへの旅」という鑑賞の手引書が用意されていて、その中に図版としてさまざまな羊飼いの作品が掲載されている。一度試してみたらいかがであろう。この安価なワーク・シートは、作品を見る時のヒントをささやいてくれるツールで、最近では国立の美術館でも採用されるようになった。難しいカタログとは一味違った手軽なガイドブックであり、欧米では早くから使われてきた。日本でもごく当然のように、美術館にこの手のセルフ・ガイドが置かれるようになってくれればと思って、推進に努めてきた一人であるが、この数年、その普及率は目を見張るものがある。僕

が編集しているミュージアム・マガジン・ドームでも何回か紹介したが、手ぶらで絵の前に立つだけでは得られない絵の楽しみ方ができるから、一度体験するとセルフ・ガイドがないといられない体(笑)になってしまう。

## もうひとつの意味

話が横道にそれた。さて、羊飼いと羊の関係は、ルカ福音書などによると、キリストとキリスト教との関係に例えられるという。そしてこれを偶像化した例には2種類あるという。ひとつは羊の群れの中に座る羊飼い、もうひとつは、羊を肩に担ぐ羊飼いというものである。ミレーはカトリックの信心深い家系に生まれ、父親は教会の合唱指揮者を務めたようなインテリの家に生まれた。僕には宗教のことなどよくわからないのでなんとも言えないけれど、西洋画の中においては羊はもちろん重要な「喻」を表す図像として君臨してきた感がある。その長い図像としての歴史を、ミレーが意識しなかったわけはもちろんないから、この絵の羊をキリストの12人の使徒たち、羊飼いをキリストと読むことも可能であるかもしれない。だからこそ、当時の人々がこの絵を見て「魔法使いみたい」と叫んだのは(叫んだかどうかは知らないけれど)、羊飼いにキリストのイメージとダブらせて見るのでおのことだったということなのかも知れない。

「西洋美術解説事典」(河出書房新社・4,500円)という本を読んでみると、絵画や彫刻に表された図像が、いかにさまざま意味を担わされて描かれてきたのかの、途方もない西洋人の情熱に驚かされてしまう。昔の絵ほど手ぶらで近づけないというのは、このことからもわかる。西洋の昔の絵は、すべての図像に、担わされた「もうひとつの意味」があると考えたほうがいい。その意味は、長い歴史を担ってでき上がってきた意味だ。「あら、可愛い羊さんね」でもいいけれど、さらにその奥に隠されている意味を読み解くこともまた、絵画を見るもうひとつの楽しみである。もっとも、ミレーはありのままの農民たちを描こうとしていたわけだから、そういう象徴性は薄くなっているけれど……。



## 音声言語を超えた(?)表現形態に人気高まる



Hey, dude! この間珍しく家でジッとしてたら、なんだか時間が持て余しちゃって…。「何か面白い番組やっているの~?」。チャンネルをランダムに換えていると、バッと目に入ってきたのが満面笑みいっぱいに手話をしながら話すジェントルマン。その姿に、というより「その人自身」に妙に魅せられた私は、ブラウン管に釘付け状態。「どうやらこの人物はニュースキャスターらしい」。その日の主な出来事を身体全体で表情豊かに伝える彼の姿は、ものすごく新鮮で衝撃的だった！手話なんて全然興味なかったはずの私が、ふと気付くと番組終了まで見ちゃってたんだから。以来、この番組とキャスターのファン化した私は、放送時間にはなるべく家にいて見るようになっているんだ。（ホントかなあ～！？）

さて、私が一目見て“ハッ”としたこの番組。実は教育テレビで毎日やっている聴覚障害者のための手話ニュースなのです。

厚生省の発表によると、現在日本にはおよそ35万8,000人の聴覚障害者がいるとか。そして今、彼ら独自の文化・教育が巷やメディアの間で脚光を浴び始めているんです。最近、ドラマや映画、出版とあらゆる分野で聴（ろう）文化がクローズアップされているでしょ。そんな流れから、自治体が主催する手話教室なんかにも若い女性を中心に申し込み者が殺到しているんだって。世界で最初に庶民の生活に聴覚教育を取り入れたのは、フランスのド・レベという司祭。この偉大な人物は手話を教え、社会的に聴覚者と同じ権利を有する。前述の開けた聴覚障害者の育成に尽力したんだって。

そして120年後の明治時代には日本にも聴覚教育が登場。しかし手話法は正しい言語発達の邪魔になると排斥。口話法で授業を行っていたんだそう。やがて言語的機能を伴った手話が発達すると各地に手話サークルが誕生。今日ではその数も裕に2,000を越えるとか。手話人口は20

万人以上だって。すごいよねー！でも一方ではまだ聴学校での手話教育が認められず、また彼らの文化も健聴者に完全な形で受け入れられていないのが実情。健聴者には言葉を発し、また聞き取る能力があるので言語という手段を用いて学び成長していくことができるけれど、聴覚障害者にはそれができない。これからもどんどん聴覚教育を発展させていくって2者間の溝を埋め、壁を取り除いて共に歩む社会を創っていくことが必要よね。そうすれば、誰にとっても住み易い世の中になると思うんだけど。

### 音声に頼らないコミュニケーション法—手話—

手話には、案外普段の私達の何気ない動作や身振りを基礎にしたものが多い。「さようなら」は横に手を振る仕草をすればいいし、「寒い」は両手を握り締めて体を震わせるだけ。まあ、全部が全部こんなに簡単明瞭なわけじゃないけど…。他には言語の意味や文字の形、歴史的背景なんかを基にたくさん手話が生まれたらしいよ。

それらを表現する動作の1つ1つには聴覚障害者の一生懸命な心がこもっている。顔の表情の豊かさや手の動きの美しさ。そして身体全体で言葉を発する時のエネルギー。なんか口から軽く出る言葉なんかよりもずっと強く相手に気持ちが伝わるんじゃないかと思わせる。

まだ歴史も浅く語彙も約5,000しかない手話は、これから様々な影響を受けては変革、創造される発展途上のコミュニケーション術。私達は今、この聴覚文化に着目している。これを、ただ単にドラマの主人公への同情や手話の物珍しさからくる一時的な流行で終わらせるのではなく、平等な社会生活を営もうと必死な聴覚障害者達によって築かれた文化を理解するいいチャンスにしたい。そして、対等にふれあいながら一緒に成長し歩んで行けるよう私達が意識改革されればベストよね。[文：真壁仁美]

### 思ひがけない場面で ふるさと再発見 こんなところに山梨

高等学校の制服をかぶり、着物に持、学生カバンを肩にかけた私は20歳。孤独をいやるために、一人伊豆の旅に出た。その旅で、私は旅芸人の一行と何度か出会い、踊子に心を奪われていく。雨の天城峠の茶屋で、私は期待どおり旅芸人に再会する。踊子は17歳くらいに見えた。古風な髪を結って、美しく調和していた。

川端康成の「伊豆の踊子」は、作者が19歳の時に旅した折の体験にもとづいて書かれている。旅費は友人から借りたとも、郷里の叔父が山を売った代金として送金したものがあたたともいう。

青春小説として名高いこの小説は、映画にもたびたびなり、その時代の人気女優がそれぞれに踊子を演

じた。吉永小百合も演じたし、山口百恵も演じた。そして、この美しい踊子は、実は、山梨県は甲府の出身である。

天城峠から大島の波浮の港に向か

**川端康成「伊豆の踊子」  
踊子のふるさとは甲府と知って、ひとあじ濃くなる初恋の味**

夜、向かいの座敷で踊子の打つ太鼓の音が聞こえてくる。音が止むと、私は踊子が汚されているのだろうかと悩ましい思いを抱く。

踊り子は「甲府へ行ったことがありますか」と私に訊き、尋常二年まで通った小学校の友達のことなどを思い出して話した。男は「私は身を過った果てに落ちぶれてしましましたが、兄が甲府で立派に家の後目を立ててくれています。だから私はまだ入らない体なんです」と告白したりする。

山梨の住人には、ことさら想像力のふくらむ伊豆の踊子である。名場面はいくつかあるが、私と旅芸人と道連れとなる。旅芸人の一行は、24になる男と、その妻、妻の母、雇いの娘、そして踊子は男の実の妹である。旅廻りの生活で、妻は流産などで二人の子供を死なせたなどと、男は親しく話しかけてくる。

私は踊子から目が離せない。その

毎日、朝から「馬鹿野郎」だの「間抜け」だと怒鳴られ、言い訳は駄目、人前に出てもいけない。しかも、勤務時間は長く、給料はきわめて安いという仕事を、さて60年も勤められるかどうか。

この本は、華やかな歌舞伎の世界にありながらいつも隠の存在で、前垂れて顔を隠し、黒装束で舞台を支える下廻り役者の生涯を紹介する。黒衣の多くの仕事は役者の手伝いで、小道具の扇子などを渡したりするものだが、ときに張り物の馬の中にもぐって、馬の足もする。

舞台の馬の重量は、およそ40キロほどで、さらに鎧を着た武士を乗せれば、全重量は100キロを超える。これを二人の下

廻り役者が前足、後足となって担ぐ。乗る役者もいろいろで、身体の平均をとつて踏ん張ってくれる役者もいれば、本物の馬のつもりで腹を蹴りあげる役者もある。重労働である。

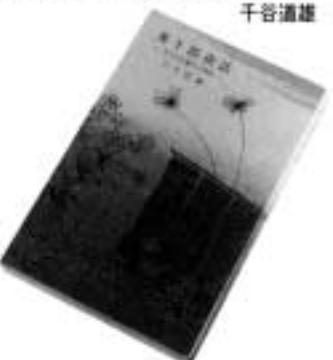
しかし、馬の足にも、それなりの工夫と芸があり、おろそかにしない。悲しい場面では、馬も悲しい表情をしなければならない。客席の誰もが人気役者に目を奪われ、馬の足などいっこうに気にもしないなかで、馬の足は、一生懸命に演技をする。そのあたりの滑稽さが下廻り役者の人生そのもののように、もの悲しく、しかし、心に伝わってくる。(川)

富山房百科文庫 ¥1350

## Book

### 下廻り役者、馬の足の人生 「秀十郎夜話」

千谷道雄 著



会いたい人から 会いたい人へ  
知りたいことから 知りたいことへ  
リレーでつなぐエッセイ

## 鋳物師と鍋屋町



### 渡辺 貫市

わたなべ かんいち  
古跡研究会理事・山梨県史編纂専門調査員

鋳物師—「いもじ」と読む。武器・梵鐘・仏像、それに鍋・釜・農具などを鋳物でつくることを生業とする人々のことである。

江戸時代の初頭、豆州（伊豆）三島から沼上氏が、府中上横沢町（現甲府市横沢町一朝日3丁目）の地に来て定着し、甲斐の鋳物師は復活する。その鋳物師たちが、横沢から新青沼に移り住むようになったのは、江戸も中期の享保の頃と推定される。以来、その地で鋳物の生産に励むが、主体はやはり庶民の生活必需品である鍋や釜などである。人々は、いつしかこの町を「鍋屋町」と呼ぶようになる。「鍋屋町」の町名の由来である。

鍋屋町は正規には新青沼町であるが、山梨県地名大辞典によると「新青沼町 江戸期～明治六年の町名。江戸期は甲府城下上府中（古府中）二十六町の一町。武田氏の時代に造営された町の一つで、甲府築城にともない新城下に組み込まれた。鋳物師が居住したため俗に鍋屋町とも称した。…」とある。また、裏見寒話にも「新青沼 俗に鍋屋町といふ 鋳物師住居として毎夜鶴鳴唄より

轆を踏む、…」とあり、甲斐国志も「一 鋳物師 新青沼町ニ三戸アリ…」と記している。

昔から甲府には、俗称どころか正式町名で、大工町・鍛冶町・細工町・疊町・桶屋町・魚町などの町名があり、その地に住んだ昔の人々の姿が偲ばれて懐かしく、百石町・二十人町・代官町などの町名もあって、いかにも城下町を思わせて風情があった。

「明治は遠くなりにけり」といわれてから幾星霜がまた過ぎ去った。世は、昭和から平成と改元され早七歳。明治ははるか彼方の歴史の一齣となり、明治生まれの人も今や少ない。

私の母も、つい3カ月ほど前、満年齢で100歳、数え歳101歳で不帰の客となつたが、生前、明治28年1月、代官町で産声を上げた母は「毎日朝早く、三ツ水門まで飲み水を汲みに行ったものよ」と、幼い頃の想い出をつれづれに語ってくれたことがある。そして、甲府の街の歴史とともに生きた母の口から、代官町を中心に、櫻町・春日町・紅梅町・錦町、それから橋町、その向こうの鍋屋町（母は決して「新青沼町」と

はいわなかつた）と、それらの町の人々の生活や、町の様子を聞いたことがあったが、そんな昔の甲府の町名がたまらなく懐かしい。

鍋屋町の鋳物師たちが住んでいた場所は、長い年月が過ぎ、それに戦災にあったこともあって跡形もなく、今となれば知る術もないが、明治27年発刊の山梨鑑のなかに（甲府市飯沼村（新青沼町）鍋久 沼上 久右衛門 萬 鍛物製造舗 鍋釜火鉢類外各種」とある。当時、鍋屋町に鍋釜を商う店があったことが知れ、鍋屋町が「鍋屋町」といわれる立派な証しの一つといえよう。

鍋屋町を含む昔の甲府の町の名はゆかしく、歴史の流れを内に秘めて情緒に溢れ、夢があって、うるおいに富んでいる。杓子定規で味気なく、俗っぽいハイカラ趣味や、よそ様からの借り物みたいな町名と異なり、心温まるやさしさに満ちている。

時の流れとはいって、町名変更によって、伝統と由緒のこもる町の名が、甲府の街から消え去ってしまったことは、まことに口惜しく、また、悲しいことである。

## 近世陸上運送の歴史をさぐる(5)

<甲府通運のページ>

汽車による物資の大量輸送は  
第二次世界大戦下  
自動車輸送から荷馬車輸送へ逆行



荷牛馬車の活用を報道する  
山梨日日新聞（昭和19年1月4日号）

駅から目的地、目的地より駅までの運送の大量化は自動車の導入となるのは当然なことであった。

わが国での貨物自動車の最初の利用者は明治33年（1900）東京銀座の明治屋洋酒店であるといわれる。大正時代になると、乗用車1,624台に対し、貨物車はわずか24台（大正5年度全国使用車数）大正9年（1920）には乗用が9,555台に対し貨物は644台となり、大正14年（1925）には22,604台に対して9,425台となった。本県においては大正5年（1916）僅か2台、9年には17台、大正15年には乗用295台に対し貨物車120台となっている。

昭和9年（1934）9月の山梨県下自動車営業者案内によると、乗合自動車として御嶽自動車、山梨開発協会、御坂国道バス、山梨電鉄、中央自動車等

### 林 陽一郎

はやし よういちろう  
山梨県教育委員会・県史編纂文化財担当

の法人組織の他3個人が甲府管内で営業を行っている。貸切の場合は32を数えるうち、法人は安全タクシーのみである。貨物営業の43のうち、法人は3ヶ所、あとは個人営業となっている。

このように鉄道運送とともに発展して来た自動車運輸も、昭和10年代よりはじまった戦時体制の影響で、ガソリンの不足、部品不足等深刻な事態に突入する。ついに昭和19年（1944）には貨物自動車は軍用車として使用されるため、荷牛馬車を活用するという事態となった。

昭和19年1月4日の運輸通信省の発表によると「荷牛馬等陸上小運搬等の運送力の最高度活用を図る為、陸上小運搬組合の統制組織を強化し地方の実情に即し運送統制を実施せしむ、なお農耕用荷牛馬等組織的利用の方途を講ず」このような事態となる前、昭和17年（1942）ごろより、県下各運送業者は大企業である日本通運に合併され、統制下に入るのであるが、対戦相手のアメリカがジープや軍用トラックの活用を行っているのにわが国の運輸は牛馬車を使う旧態にと逆行するのである。

## ユーザー訪問

<トヨタビースタ山梨のページ>

リース活用で経費を削減  
フットワークのよさと高速走行の  
安定性には定評があります

### 総合雑貨商社 株式会社マルヤマ

シャンプー、リンス、石鹼、洗濯洗剤、ムース、殺虫剤、紙おむつ、トイレットペーパー…etc。株式会社マルヤマの倉庫には、スーパーとドラッグストアに卸す商品が所狭しと並んでいる。

マルヤマは日常雑貨の卸しをしている会社だ。「現在扱っているアイテムは4000くらい。これでも一時期よりは、だいぶしばられてきましたね」と丸山秀雄社長。現在、品物の卸し先は、県内をはじめ長野にまで範囲を広げている。

ここマルヤマで活躍しているトヨ



タビスタの車は、ターセル10台とハイエース2台。営業用と商品運搬用だが、いずれもリースで使用している。「経理とタイアップして、我が社の月利やいろいろな諸経費を算出した結果、リースがよいということになりました。使用する個のニーズ感も多様化していますね。長年乗っていると、どうしても修理代などかかる。点検をまめにせず、トラブルなどを起こすと、結局迷惑するのはお客様なんですからね」。丸山社長は続けて「甲府市内だけでなく、長野まで商圈を広げていますので、高速走行も必要になります。そんな時でもトヨタの車は安心。社員から特に困ったとか、

大きな事故があったとかという話も聞きませんし。さすが安全を売るトヨタ(笑)。社員も大事に扱って、よくそうじなどしますよ。そんな所で社員の人間性もちらりと垣間見られたりもします」。

青年時代から「商売が好きだったなあ」と振り返る丸山社長は、高校を卒業して大学に入学するまでの間、親類の衣料品卸し問屋に勤めた。ここでの2年間で、商売のノウハウを学んだ。「いい経験をしましたよ。開拓心とか挑戦とかがあふれている時代で。いろいろな人間関係もできましたしね」

オイルショック以後、卸し業者間でも個人のニーズの多様化に対応すべく、競争がはげしくなってきた。「少しでもお客様のために役立つように、買ってくれた方がよろこんでくれるように、そうするためには、自分が人からされてよかったですと感じたことを、お客様にもしてさしあげる。その中で、信頼もでてくるだろうし、信用もされる」と丸山社長は、穏やかだがきっぱりといった。

〒400-15  
東八代郡中道町下曾根塚田632-1  
TEL 0552-66-5335

## お家拝見

<トヨタホーム山梨のページ>

31歳で憧れのマイホーム  
お気にいりのリビングルームには  
太陽の光と家族の笑顔があふれてる



近藤正彦さん宅 (山梨市)

マイホームを持ちたい、誰でも一度は夢にみる。近藤さんは31歳という若さで念願の一戸建、トヨタホーム「メレーゼ」を手に入れた。「すぐ近くの団地に暮らしていました、ずっと一戸建がほしくて適当な土地を探してたんです。そんな時、ここが分譲されました、思い切って夢だったマイホームを建てました」という近藤さんの家は、日川沿いの静かな住宅街にある。緑が多く、川にも近い、生活するには申し分のない環境だ。

完成したのは今年の2月24日。奥さんの明美さんと長男・和洋君(7歳)、二男・純君(5歳)、三男・汰央君

(7カ月)の、にぎやかな5人暮らしだ。

近藤さんとトヨタホームとの出会いは住宅展示場。その時まで、いくつも回った展示場でトヨタホームの住宅はたまたま見学したことがなかった。「故意じゃないですよ(笑)。ひと目見たトヨタホームは、さりげなくて、シンプルで…。私自身がシンプルなものが好きなので、とっても自分に合っているなと思ったんです。

すっかり気に入って帰ってきたら、その晩、営業担当の方が来てくれて、話がトントン拍子に決まりました。実は近藤さん、その時点で他のメーカーとの話がだいぶ進んでいたのだそう。でもそこをあえてトヨタホームに、というのだからよほど強く魅かれたのだろう。「お願いしてよかったです」と、近藤さんは懐かしそうに振り返る。

自慢の部屋はリビング。和室とつなげると23畳になる。「一戸建ならではの空間ですよね。子供がいるので、自由に動き回れる広さがありがたい。この間大人20人くらいでお披露目会をしたんですが、ゆったりしましたよ。それに庭へ出られるガラス戸は、二間分そっくり開くんです。これはとってもいい」。リビングからは、河川敷の立派な桜の木が見える。春が待ち遠しそうである。



## &lt;トヨタピスタ山梨&gt;

## 「IDOの新規加入料大幅値下げ！」

かねてより、大変ご好評をいただいているIDOのミニモの新規加入料が、大幅値下げになりました。

ナントお得な7,500円！新規契約手数料と合わせても、10,800円と、今までの半分以下になりました。

月々2,700円から選べる、身近で多彩な料金プランも、用途に合わせて6タイプご用意いたしております。

しかも7月下旬からは、ローミングサービス（オプション）により、日本全国のサービスエリア内で、かけられ、受けられるようになりました。

さ・ら・に、トヨタピスタ山梨では、お買上げの電話機本体も大幅値下げいたしました。新発売の「H101 II」では、お買上げの場合、携帯電話本体代金、新規契約時必要費用、お買得セット代金、の3つを合わせても、31,000円でご使用になれ、大変お得な価格設定になっております。また、現在IDOの携帯電話をお使いいただいているお客様にも、機種変更キャンペーンも行なっております。より良い新製品を、御安くお使いいただけるものと思います。

携帯電話の性能も飛躍的に向上し、また価格の面でも大変リーズナブルになりました。この機会を是非お見逃しなく。

## 「こんな方には、ハートライン」

お得な話をもう一つ。お安い市外電話サービスでおなじみの、0070日本高速通信の新サービスのお知らせです。月々わずか100円の定額料金でお得な0070の通話料金がさらに10%割引になります。単身赴任でのエブリディーコール、遠くの友人との長電話、遠距離恋愛でのラブコール、こんな方には、ハートラインがお勧めです。もちろん、基本料金は一切無料、かけかた簡単0070回すだけ、電話機そのままで、工事も不要です。お支払いも、コンビニエンスストア等でご利用になれます。

お申込は、トヨタピスタ山梨㈱各店まで。

## &lt;トヨタホーム山梨&gt;

マイホームは  
上手な返済計画とトヨタホームで

住宅を建てる際、一口に住宅金融公庫で1億円、1億円を借りるといつても、一体、毎月どれくらいの金額を支払えば良いのだろうか？という人も多いはず。そこで、下記のような返済金額の計算例を参考にしていただきたい。

現在の生活を考えてみると住宅取得も夢ではないかも知れません。

ご自分の場合を下記のやりかたで考えてはいかがでしょうか。

また、資金はもちろん敷地、間取りなど住宅に関することなら何でも、トヨタホームにお気軽にお問合せ下さい。

## &lt;返済の計算例&gt;

Aさん（38歳）の場合

年収600万円（月収50万円=年収÷12ヶ月）

建築費=2200万円

返済期間30年／ゆとり返済無し

住宅金融公庫からの借入額1600万円の場合  
(借入れは建築費の80%まで)

住宅基本融資額=1270万円

特別加算額=330万円

## 毎月支払い分

基本融資額1270万円のうち770万円分  
特別加算額330万円のうち180万円分

## 毎月支払い分の返済額の計算

基本融資額分（770万円+100万円）×4352（金利3.25%の時）=33510円  
特別加算額分（180万円+100万円）×4379（金利3.3%の時）=7882円  
毎月支払いの返済額（基本融資額+特別加算額）=41392円

## ボーナス支払い分（それぞれの融資額の半分以下で50万円単位）

基本融資額1270万円のうち500万円分  
特別加算額330万円のうち150万円分

## ボーナス支払い分の返済額の計算

基本融資額分（500万円+100万円）×26,126（金利3.25%の時）=13,0630円  
特別加算額分（150万円+100万円）×26,832（金利3.3%の時）=40,248円  
ボーナス支払いの返済額（基本融資額+特別加算額）=170878円

Aさんの必要最低月収（毎月の返済額の5倍の月収が必要）

基本融資額分（1270万円+100万円）×4,352=55,270  
特別加算額分（330万円+100万円）×4,379=14,450

（55,270×5）+（14,450×5）=348,000（千円未満切捨）

## 必要最低月収

必要最低月収 Aさんの月収  
34万8千円=50万円

## ときのひと・FACE

人を結ぶ地域と結ぶ  
知りほし心の交流スポット

## &lt;早野グループのページ&gt;



孫やひ孫に囲まれて 百寿の記念撮影

## 菊島ぬいさん（102歳）一宮町

山梨県内に100歳を越すお年寄りは55人いる（9月15日現在）。このうち最高齢は107歳。長寿社会といわれて久しいが、ねんりんピックやゲートボールに参加したり、俳句や川柳を作ったりと、お年寄りたちは年々元気に活躍している。

## 102歳 一宮町の最高齢者

一宮町にお住まいの菊島ぬいさんは、明治27年2月15日生まれの102歳。町の最高齢者だ。平成5年の敬老の日には、当時の細川内閣総理大臣から100歳の表彰を受けた。息子1人に孫が3人、ひ孫は8人いる。その孫の1人が、早野組営業部長・菊島伸司さんだ。

「足が自由になれば、まだまだ畠仕事もできる」と、ぬいさんはいたって元気。耳は少々遠いが、受け答えはしっかりしている。歌は好きかと尋ねたら、「鉄道唱歌」を歌ってくれた。しっかりした音程、張りのある声、間違いない歌詞。歌い終わって家族が拍手をしたら、ニコッと笑

って機嫌のいいようす。「私の自慢はね、1度も医者にかかったことない」と胸を張ってきっぱり言い、お嫁さんの敏江さんも「内臓はどこも悪くない、80歳くらいの内臓だとお医者さんに言わされました」と話す。



談笑するぬいさん  
102歳とは思えない若々しさ

## “生きようとする意志の強さ”

そんなぬいさんも、関節炎には悩まされた。6年前に歩けなくなってしまった。8カ月入院。96歳の時だ。「お医者さんは、もうこの年になると歩けるようになるのは不可能だと言っていたんですよ」と敏江さんは当時を

振り返る。「ところがおばあちゃん、『先生がこんなに一生懸命やってくれているんだから、私もがんばる。私が痛いなんて言ってられない』って歯をくいしばってリハビリをがんばって…。ついに、杖を使ってですけど歩けるようになりました。お医者さんにも奇跡的だって言われたんです。とにかく意志が強い」。息子の秀声さんも「明治の女ですね。氣骨がありますよ。長生きのコツは、『生きようとする意志』の強さだと思いますね」と話す。毎日の食事はしっかりとる。乳製品以外は野菜を中心は何でも食べる。でも一番の好物は、敏江さんが作ってくれるいなり寿司だそうだ。

「疲れちゃいけないから、隣の部屋で休む？」という秀声さんの問い合わせに、ぬいさんは「皆と話しているのが楽しい」と言い、席を立とうとしない。ぬいさんの母親は94歳、祖母も104歳という長寿の家系。帰り際、玄関まで送っていただいた。ぬいさん、いつまでもお元気で。

おしゃれ

## 加賀美法子舞踊研究所



レッスン 水・土曜日  
所在地 甲府市国母3-15-21  
TEL 0552-32-4008  
並伊勢、田富、並崎教室もある



たべる

## ケルシェ



営業時間 11:00~14:00  
17:00~21:00  
定休日 月曜日  
所在地 甲府市北口2-4-13  
TEL 0552-52-4959



### ハンバーグステーキの老舗 ボリュームたっぷりのケルシェ風を1度お試しあれ

ケルシェといえばハンバーグ、ハンバーグといえばケルシェ、というふうに、山梨ではもうすっかりお馴染みの店。北口に店を構えて、そろそろ四半世紀になる。

自慢のハンバーグステーキは、つなぎには卵しか使わない牛肉と玉ねぎだけの逸品。とろけるような柔らかさが何とも言えない。また、ラードはいっさい使用せず植物油だけで仕上げるので、とってもヘルシー。たっぷりのポテトと大きなハンバーグで2000円とは、まさにご主人の目標とする「ご家族連れでも安心で満足していただける店」だ。サラダのドレッシングもノンオイル。ベースがチーズだが、味も香りも押さえられていて、チーズが苦手な人でも充分いける。こちらもボリュームたっぷり。

温かい料理は温かく、冷たいものは冷たいまま、ハンバーグの皿を温めたり、ビールグラスを冷やしたり、料理とお客様に対する愛情が感じられる。

### 基礎をしっかりレッスン バレエは美しい体と心をつくる

クラシックバレエとモダンダンスの2コースで、現在70人がレッスン中。「厳しいレッスン内容だが、基礎からしっかり学べる」と定評がある。指導にあたっているのは加賀美法子さん。山梨で舞踊研究所を開いて16年になる。生徒たちは、3歳のおちびちゃんから社会人までと幅広い年齢層だ。

レッスン場を新築したのは、今年の6月。天井までの高さは4m、床面積は実際に舞台で踊る広さと同じスペースになっている。「生徒たちは大喜び。とってもはりきっています」と加賀美さんは話す。「踊りを通して、自己表現ができるようにレッスンしています。皆、物事に積極的に挑戦するようになり、全国コンクールにも毎年参加しています。バレエは、美しい体型を保つためにはもちろんですが、続けていくうちに内臓も強くなり健康になります。また、仲間同士助け合ったり、励まし合ったりして、心の教育にもなりますよ」。あなたもバレエ、始めてみませんか？

甲州の野辺にて ②

## 「満面の輝き」

堀 憲吉 美術家  
はり しんきち

国が自前で生んだ唯一無二の近代彫刻といつてもさしつかえないだろう。

だが、彼の自刻像は、多くの自画像を通してヨーロッパ近代美術のさきがけとなった17世紀オランダの画家レンブラントや、デカルトの「我思う故に我在り」という、主体としての自意識とは異質である。

本喰行道の彫刻では、私も人も木喰自身と一緒に化している。けって、木喰行道自身にその主体が置かれているわけではない。十六羅漢の円満の相は、そこらあたりの好々爺の貌（かお）であり、山の神や郡頭河婆（そうずかばばあ）は、どこかの村の強盗婆さんのようで、子安觀音は母道で子供をあやす母親そのものである。

「仏は我が生命のなかにある」といわんばかりの自刻像においてすら同様である。

わが身を捨てて、衆生救済の行脚に生涯を始めた本喰であったが、その道はそのまま、彼自身の魂を救済する道でもあったのだろう。村々を巡り歩き、仏を彫りながら、我執のくびきを、広大無辺の三千世界にある衆生の輪廻のなかに落かしこんでいく。

私は、彼の造った彫刻のすべてが、自刻像に到達するプロセスのように思える。それによって彼は、宗教彫刻としての自刻像という、他に類をみない世界を生み出した。彼の自刻像は、彼が捨てた己の見事な転生なのである。

そこに浮かぶ満面の輝きは、近代を超えて、はるかな未来へと放射されているようだ。



2度目の西園湛在の折（寛政11年・1799・6月28日）木彌が刻んだ立木子安觀自在權縣伊予三島市中之庄 光明院所蔵



「郡頭河婆」  
静岡県引佐町狩宿 寿竜院所蔵

## 某月某日

猛暑がウソのように涼風が立ち込め 季節の移ろいを感じるようになった  
風景もまた衣替えをしていく  
誕生と消滅を繰り返す自然界の摂理の尊さが 改めて思い知らされる  
唯々諾々と生きることだけは避けたい

- ・微妙なバランスが崩れてしまった自然環境
- ・新製品でも2割3割引き 当たり前



## ×月×日

今夏は、ためつすがめつ温度計を確かめながら、暑い、暑い、暑い…と、エアコンの室外機ばかりが目につく有り様。そして、エアコンを買うために暑さの中で精を出す。夏の風物と言えば、すだれに金魚売り、縁台の上では近所のおじさん達が将棋の駒を並べての腕自慢。そんな余情的な景色がいつの間にか無くなってしまった。文明を手に入れた人間の宿命だろうか、自然と対峙する阿呆らしささえ感じる悪循環だ。

気候システムに何か異変が起こり、微妙なバランスが崩れてしまう、そんな瀬戸際に置かれているとしか思えない現象が新聞紙面を賑わせている。残念なことだが、地球環境を悪化させている最大の加害者が私たち人間にはかならない。資源やエネルギーを大量消費し、その結果として、自然環境を崩壊の縁にまで追い込んでいるのだ。

これまでとは異なる発想、体系に支えられた新しい文明、環境倫理の構築が求められる。消費者・生活者の努力に委ねるだけでは限界がある。企業の積極的な協力が必要だ。それが新しい

文明を支える重要なファクターとなる。持続可能な開発のためには、ローコストで大量に売ればいいという今までの規範を、企業自身が変えねばならない。もうすぐ環境管理・監査に関するISO(国際標準化機構)基準が発効し、日本にも導入される見通し。取り組みに積極的に配慮している企業が支援され、消極的な企業が排除されていく。「熱心でないと判断されると、銀行も世間の目を意識して融資に慎重にならざるをえないし、また株価への影響も避けられない」。そんな時代がくるかもしれない。

地球環境時代への船に乗り遅れないよう、環境問題を視野に入れた戦略、体制づくりが求められる。

## ×月×日

ディスカウントショップで新しいビデオカメラを買った。何かと話題を集めた激安ブームのおかげで、新製品でも2割、3割と希望小売価格より安く買うことができる。家電製品、ブランド品をはじめ、化粧品やお酒、日常品に至るまで数多くの分野でモノの“値段

## のしくみ”が崩れてきた。

目玉商品だけを安売りしているのではなく、いつ行っても同じ安さで価格が安定している。カタログでの注文ができる。きっと、仕入れルートや経費削減など利益率を抑えて安く売っても利益を上げられるシステムを築き上げているのだろうが、不思議なくらいだ。

これは、消費者が「安くいいモノを買う努力」をしてきた結果、メーカー主導の流通のしくみを根底から覆したことにはかならない。ドーンと大量につくり、コマーシャルを打って売りさばく従来の方策、体質も様変わりして、生産調整するなど相場の乱れを防いでいるはずなのに、買う側にとっては何か改善されているようでいてうれしい。

30年前、「スーパーと現れてバーと消えるから」とバカにされていたスーパー。またたく間に全国を席巻したが最近では、「エブリディー・ロープライス」のダイエーや「半額セール」のイトーヨーカ堂と、ディスカウント路線に転じて、今やプライスリーダーになっている。こちらも、うれしい限りである。

[文：新海 敏]